

**J-POWERグループに期待する取り組み** [J-POWERグループ サステナビリティレポート2010 読者アンケート]

**「経営編」等について**

ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対する回答)
<p>「電力事業が否応なく環境への負荷を与えている」という認識を前提としている点に好感が持てた。是非、その認識を社員1人ひとりが共有できるようになって欲しい。</p>	<p>「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」という企業理念を従業員全員が真に共有し、「エネルギーと環境の共生」を目指して様々な事業活動に取り組んでいます。</p>
<p>原子力発電施設の地震や津波などの災害への安全対策について、どのレベルの地震や津波を想定し設計され、安全対策がなされているか特集して下さい。</p>	
<p>今般の原発事故を踏まえて、安全対策を強化したか特集して下さい。</p>	
<p>今般の原発事故を教訓として、原子力発電施設の安全をシビアに見直して下さい。</p>	
<p>今般の原子力発電所の事故は、先が全く見えない状態です。これまで安全といわれて来たものが、災害にあつた安全でないことも分かりました。</p>	<p>J-POWERでは、今後、福島第一原子力発電所の事故に対する安全強化対策等の検討を進め、国の方針なども踏まえたうえで、必要な対策について常に適切に反映しながら、地域のご理解を賜り、皆様から信頼される安全な発電所作りに向け全社を挙げて取り組んでいきます。 【サステナビリティレポート2011/P11～P13「大間原子力発電所の状況について(報告)」をご参照ください。】</p>
<p>安全性の高い原子力発電の確立を期待します。大間原子力発電所の早期無事故運転のための努力に傾注し、万全を期されたい。</p>	
<p>大原子力発電所に注目しています。予定通りの完成を期待します。トラブルを起こさぬよう、安全確保最優先の方針を堅持して下さい。</p>	
<p>今後、日本の原子力発電所では閉鎖される発電所が増えてきますが、閉鎖時の撤去機器のリサイクルなどを設計上どのように考慮(工夫)しているのかを知りたい。</p>	<p>原子力発電所の解体中に発生する廃棄物の中には、安全上「放射性物質として扱う必要のないもの」も含まれており、これらについては、放射能を測定し安全であることを確認し、国のチェックを受けた後、再利用できるものはリサイクルし、できないものは産業廃棄物として処分するしくみとなっています。 なお、原子力発電所の解体及びその廃棄物のリサイクルについては、国内外で実績があります。</p>
<p>環境とエネルギーを考えた経営を実践して欲しい。</p>	
<p>日本と世界の持続可能な発展に今後とも益々貢献されることを期待します。</p>	<p>J-POWERグループは「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」との企業理念を踏まえ、持続可能な社会の発展に貢献していくため、環境配慮と経済価値の向上を同時に実現する「環境経営」に取り組んでいます。</p>
<p>企業理念を糧に、J-POWERグループで知恵を出しあって、日本と世界の持続可能な発展に貢献して下さい。</p>	
<p>企業理念を実現すべく、短期・長期の経営目標を着実に履行して下さい。</p>	
<p>企業価値向上のために益々コーポレートガバナンスの充実とコンプライアンスの徹底は会社経営にとって重要な課題であると思います。</p>	
<p>企業行動規範・モラルを遵守し、企業としてのプライドと誇りを持って国内外の発電事業、新しいエネルギー開発にバフワルに打ち込んでもらいたい。</p>	<p>J-POWERグループは「人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する」との企業理念のもと、長期的な企業の発展と企業価値の向上を図り、様々なステークホルダーの皆さまからの信頼を得るため、コーポレート・ガバナンスの充実とコンプライアンスの徹底は極めて重要な経営課題であると考え取り組んでいます。 【サステナビリティレポート2011/経営編 P15～P19「企業価値向上を支える取り組み」をご参照下さい。】</p>
<p>法令遵守の徹底を期待しています。</p>	
<p>日本は世界においても有数の地震多発国であり、又、発生が予想される東海、東南海大地震等の自然的リスクを抱えています。電力の安定供給という使命上、御社がそれらの災害に対して、どのような備えや対策などを採っているか知りたいと思います。</p>	
<p>テロや放射線漏れ時などの危機が発生した場合の迅速な対応や情報公開をお願いします。</p>	<p>J-POWERグループの事業環境に潜在する危機は複雑かつ多様化しており、自己責任に基づき様々な危機事象を的確に予見するとともに、これが顕在化した時には適切に管理することが求められています。このため、J-POWERグループでは危機管理体制を敷いて、危機事象が顕在化したときの対応に備えています。 また、J-POWERグループでは、社員の意識改革と行動改革のため、社員教育などを実施し「法令」や「企業行動規範」、「社内規程」の遵守を図っています。 【サステナビリティレポート2011/経営編P16～P18「危機管理とその体制」、「コンプライアンス」をご参照下さい】</p>
<p>新型インフルエンザへの対応には感心しました。</p>	

**「社会編」について**

ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対する回答)
<p>第一線のダム管理や水力発電所で働く人々の姿を知りたいです。どのような考え方でどのように対応されているのか知りたいです。これを知ることにより電気の大切さが分かります。</p>	
<p>電力はエネルギーの基本であり、安定供給に努力して欲しい。</p>	<p>J-POWERグループは、卸電気事業者として電力需給を支えるために水力発電所59ヵ所、火力発電所8ヶ所<sup>※</sup>他の発電設備を安定的に運転し、環境に配慮しつつ電力の安定供給に貢献しています。</p>
<p>環境を最大限考慮に入れた電力安定供給を期待します。</p>	<p>サステナビリティレポート2011では「電力設備の保守・運用」と題しまして、J-POWERの電力設備の中で長年にわたって電力の安定供給に貢献してきた発電所(水力・火力)など、第一線の現場で働く従業員の業務内容をご紹介します。</p>
<p>環境に配慮しつつ電力の安定供給をお願いします。</p>	<p>【サステナビリティレポート2011/社会編 P21～P25をご参照下さい。】 ※)地熱発電所1ヶ所を含む</p>
<p>自然資源の活用も含めて電力の安定供給に努めて欲しい。</p>	

ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対する回答)
<p>レポート2010特集の『海外での取り組み』は大変参考になりました。 今後、特に海外での事業展開が大きくなることを期待します。</p> <p>『第2の柱』と言っているように、海外での取り組みを強化して欲しい。</p> <p>海外に目を向けて世界へ素晴らしい技術売り込んだ営業活動も今後取り組んで下さい。</p> <p>国内だけではなく、どんどん海外での事業に参画して欲しい。</p>	<p>J-POWERグループは、海外技術協力をはじめとする約50年の実績を有する「海外コンサルティング事業」と経営の第2の柱として注力する「海外発電事業」の両分野を推進し、日本国内で培った発電事業での環境保全技術などを活用して世界の持続可能な発展に貢献していきます。</p> <p>【サステナビリティレポート2011 / 社会編 P31～P32「海外での取り組み」をご参照ください。】</p>
<p>J-POWERの持つ環境技術を今後発展が見込まれる新興国に持って行くことで、「企業価値の向上」と「環境問題の解決」という2つの課題をクリアできる可能性があります。</p> <p>世界の中でも人口が多い国で、未開発地域にJ-POWERの電力で明かりを灯してください。</p> <p>J-POWERの社員が安全な地域であれば、電気のない国に進出して欲しい。</p> <p>新興途上国のエネルギー政策を企画・構想・設計・開発・建設・運営に至る総合力発揮を外部力をも含めて「産・官」協力して推進することを期待します。</p>	<p>J-POWERはこれまで培ってきた高効率石炭火力技術を活かし、新興国などの電力安定供給と環境負荷低減、そして先進的技術の移転・普及に貢献していくことを目指しています。</p> <p>例えば、アジアの電力需要は今後も堅調に増加し、石炭火力は引き続き電力供給の主役を担う見込みで、発電量、設備量とも2030年までに現行のおよそ2倍と予想されていますが、J-POWERは最新のクリーンコル技術を活かして「アジアの成長」と「環境負荷の抑制」の同時達成への貢献を目指していきます。</p>
<p>海外での取り組みを国別により詳細に知りたい。</p>	<p>サステナビリティレポート2011 社会編P31～P32「海外での取り組み」および当社のホームページ「海外展開」をご覧ください。</p> <p><a href="http://www.jpowers.co.jp/bs/field/kaigai/index.html">http://www.jpowers.co.jp/bs/field/kaigai/index.html</a></p>
<p>日本国内のJ-POWER各事業所の地域との密着したコミュニケーションの充実をはかり、地元の人を大切に、ふれあい祭、見学会など誰でも参加できるようにして欲しい。</p> <p>特集の『海外での取り組み』/現地での企業として活動され、現地の社会に貢献して欲しいです。</p> <p>地域とのコミュニケーションにも取り組んで欲しいです。</p>	<p>J-POWERグループの事業活動は、発電所などの地域の人々によって支えられています。社員一人ひとりが、それぞれの地域において良き市民であり、地域と社会に役立つ存在でありたいと思えます。</p> <p>今後も地域の人々から信頼され、社会とともに成長することをめざしていきます。</p> <p>【サステナビリティレポート2011 / 社会編 P33～P36「J-POWERグループの社会との共生」をご参照ください。】</p>
<p>岐阜県の御母衣で初となる『エコ×エネ体験ツアー』で、「子供達が川の水をせき止めて水車を回して豆電球を点灯させた」という記事が出ていましたが、どんな水車を回し発電したのか実例を知りたい。</p>	<p>川遊びを通して水力発電の原理を学ぶ環境学習の一環として、木製の小型水車を用いています。</p> <p>本環境学習の概要や実施状況の写真などは、下記URLをご覧ください。</p> <p><a href="http://www.jpowers.co.jp/ecoene/index.html">http://www.jpowers.co.jp/ecoene/index.html</a></p>
<p>施設見学会の回数、人数増加を希望します。</p> <p>風力発電所の見学会に参加してみたい。</p>	<p>見学会の実施にあたりましては、発電所の運転計画や設備上の受入可能人数などの制約があり、それらを調整のうえ、開催の地域バランスを考慮しながら実施内容を決定しておりますが、なるべく多くの皆様に当社施設をご覧いただけるよう、引き続き努めてまいります。</p>

## 「環境編」について

ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対する回答)
<p>2009年度末時点においてコーポレート目標が未達成となっているものについて、2010年度末での目標達成に向けて取り組んで欲しい。</p>	<p>J-POWERグループ環境経営ビジョンのアクションプログラムのうち、グループ全体として取り組むべき中長期的な目標として「コーポレート目標」を設定しています。</p> <p>「コーポレート目標」のうち、多くの項目は2010年度を目標年としていましたが、全ての項目で目標を達成しました。</p> <p>【サステナビリティレポート2011 / 環境編 P49～P50「2010年度の実績」をご参照ください。】</p>
<p>企業の環境への取り組みの充実振りを示すに、環境会計は必要不可欠も、本冊子は余りに少なく不満が残ります。</p> <p>環境会計報告書の公報公告を以て、企業価値を一層高めて欲しいものと希望致します。</p>	<p>環境省の環境会計ガイドラインなどを参考に、環境会計に関する情報開示に取り組んでいます。</p> <p>【サステナビリティレポート2011 / 環境編 P52「環境会計 / 環境マネジメントグループ効率」をご参照ください。】</p> <p>また、環境会計に関するデータの一部を資料編(サステナビリティレポート2011のP87)へ掲載していますので、ご覧ください。</p>
<p>地球環境問題への取り組みを更に重視した活動を一層期待します。</p> <p>CO<sub>2</sub>排出削減に向けた継続的活動を期待します。</p>	<p>J-POWERグループは、エネルギーの安定供給に向けて最大限の努力を傾注するとともに、低炭素化に向けた取り組みを国内外で着実に進め、地球規模でCO<sub>2</sub>排出の低減に貢献していきます。</p> <p>そのため、「石炭火力発電の低炭素化の推進」、「次世代の低炭素技術の研究開発」、「CO<sub>2</sub>フリー電源の拡大」等により、中長期的視点から「技術」を核にして、日本と世界のエネルギー安定供給とCO<sub>2</sub>排出の低減に取り組んでいます。</p>
<p>火力発電の燃料のこれから先の見通しはどのようなのでしょうか。資源保存など知りたいです。</p>	<p>J-POWERの火力発電所における主燃料は石炭です。</p> <p>今日、世界のエネルギーの大半は化石燃料で賄われており、中でも石炭は石油や天然ガスに比べて最も埋蔵量が豊富であり、かつ中東地域に偏らずアジアを含め世界中に広く分布していることから世界各国で主要なエネルギー源として使われています。</p> <p>【サステナビリティレポート2011 / 環境編 P54「石炭利用と地球温暖化対策」をご参照ください。】</p>

ご意見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対する回答)
<p>J-POWERグループの高い技術力を生かして、発電所の更なる効率向上を期待したい。</p> <p>水力発電所の一括更新工事で5%も出力が向上するそうですが、今後も更新工事を進められたい。大出力発電所による5%増は効果が大きいと思います。</p> <p>エネルギーの更なる効率化を期待致しております</p>	<p>J-POWERグループの石炭火力発電設備は、最先端技術の開発に自ら取り組み、積極的に採用してきたことによって、世界最高水準のエネルギー利用効率を達成しています。水力発電なども含めて設備の安定運転に努めるとともに、設備の更新時には発電効率のより一層の向上を図っています。</p>
<p>技術革新とその実行、その過程で発生する問題解決の課題など、これからも克服と前進のレポートを期待します。</p> <p>IGCCやIGFCの今後の展望について知りたい。</p> <p>将来を見据えた研究内容を詳しく知りたい。</p> <p>環境負荷をできるだけ減らす高い技術を期待します。</p> <p>CO<sub>2</sub>回収技術の開発に期待します。</p> <p>火力発電における効率の向上、CCSなどの研究開発への取り組みを強化して欲しい。</p>	<p>J-POWERグループは、電源の低炭素化のための技術開発として、さらなる高効率石炭火力発電技術、CO<sub>2</sub>回収・貯留技術、および次世代の再生可能エネルギー発電技術に関する研究開発に、積極的に取り組んでいます。 【サステナビリティレポート2011/環境編 P59～P60「次世代の低炭素技術の研究開発」をご参照ください。】</p>
<p>石炭火力発電から回収したCO<sub>2</sub>ガスは化学原料として利用できないのでしょうか。</p>	<p>石炭火力発電から回収したCO<sub>2</sub>ガスを化学原料として利用する予定はありません。</p>
<p>原子力に頼らず地熱、水力、海洋温度差、風力など、土地に合ったCO<sub>2</sub>の出ない自然エネルギーシステムを提供して欲しい。</p> <p>風力発電の活用、水力発電の一層の活用と効率化などを期待する。</p> <p>再生可能エネルギーの活用にもっと力を入れて欲しい。</p> <p>地球の環境上、水力・風力・火力の発電と建設を増やして自然エネルギーとして整備すべきだと思います。</p> <p>クリーンエネルギー開発を最重点に取り組んで欲しい。</p> <p>国内外においても安全で地球環境にやさしい発電に発展される事を希望します。</p>	<p>J-POWERグループは、CO<sub>2</sub>排出の少ない電源として、水力や風力、バイオマス、地熱などの再生可能エネルギー等の利用拡大に取り組みすることで、CO<sub>2</sub>排出の抑制を図っています。 【サステナビリティレポート2011/環境編 P61～P65「CO<sub>2</sub>フリー電源の拡大」をご参照下さい。】</p>
<p>太陽光発電は考えていないのか。</p> <p>太陽光発電への積極的取り組みを期待したい。特に大規模な発電への技術開発を期待したい。</p>	<p>北九州市若松区の響灘埋立地では、響灘太陽光発電所(設備出力1,000kW)が2008年3月から稼働しています。また、2011年度からは集光追尾型の太陽光発電についても国内最大規模である150kWを設置する計画です。</p>
<p>過去に建設されたダム の歴史と現状の解説をレポートに掲載して下さい。</p>	<p>J-POWERグループ サステナビリティレポート2011では、「J-POWERグループ 水力発電所のあゆみ」と題して関連記事を掲載しています。 【サステナビリティレポート2011/環境編 P62をご参照下さい。】</p>
<p>鬼首地熱発電所の事故等、充分検討・検証し、再発防止・事故防止に全力をあげて欲しい。</p> <p>テレビニュースで放映された鬼首地熱発電所での事故についての報告が載っていないが、その後どうなっているのか。</p> <p>鬼首は大丈夫でしょうか。地熱発電の技術も頑張ってください。</p>	<p>2010年10月17日に鬼首地熱発電所において噴気災害が発生しました。将来にわたり今回の災害を忘れることなく、安全対策を講じ、類似災害の再発防止に取り組んでいきます。そのうえで、今後も地熱発電に真摯に取り組んでいきます。 【サステナビリティレポート2011/環境編 P65をご参照下さい。】</p>
<p>2010年は名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。地球環境問題はその取り組み次第では企業を左右する問題です。どうか安定した経営とともに真摯に取り組んで頂きたいと思います。</p> <p>地域環境と自然の恵みに配慮されて、生物の対応・管理に協力され、これからも環境保全に努めていただきたい。</p>	<p>J-POWERグループは、事業活動における生物多様性への配慮を行い、自然環境との共生・調和に努めています。また、発電所の新設等をする際には環境アセスメント(環境影響評価)を実施し、地域の方々などの意見を反映しながら環境保全のために適切な配慮を行うとともに、モニタリングを行いながら自然との共生に向けた環境保全対策を実施しています。</p>
<p>ダム の土砂の堆積についてあまり触られていないようですが、どのような対策をとっていますか。</p>	<p>サステナビリティレポート2011では「電力設備の保守・運用」と題しまして、J-POWERの電力設備の中で長年にわたって電力の安定供給に貢献してきた発電所(水力・火力)など、第一線の現場で働く従業員の業務内容をご紹介します。その中で「ダム貯水池の堆砂対策への取り組み」を紹介しています。 【サステナビリティレポート2011/社会編 P22をご参照下さい。】</p>
<p>石炭灰の利用状況、今後の取り組みについて知りたい。</p>	<p>石炭火力発電所から排出される石炭灰は、粘土代替のセメント原料、土地造成材、コンクリート混和材などの土木・建築資材、肥料などの農林水産用資材として、そのほとんどが有効利用されています。また、排煙脱硫装置の運転により発生する石こうや硫酸は100%有効利用しています。 【サステナビリティレポート2011/環境編 P71をご参照下さい。】</p>

## 本レポートの改善すべき点など [J-POWERグループ サステナビリティレポート2010 読者アンケート]

「レポート編集」について	
ご 意 見	J-POWERグループの取り組み(ご意見に対する回答)
<p>簡潔に50～60頁にまとめたものが、良いと思われる。</p> <p>充実しているが、もっと簡略化できないか。</p> <p>図表、写真を多くし、文字をもう少し少なくして、字を大きくして欲しい。</p> <p>項目が多いのは評価しますが、反面、ポイントが分散されたり、字が小さく読みづらいという面もあります。メリハリをつけたいかがでしょうか。</p> <p>もう少し、イラスト等を多様したらよいと思います。</p>	<p>J-POWERグループの事業活動は、「エネルギーと環境」の両分野に深く関わっていますので、サステナビリティレポートの記載にあたっては正確性を確保することが重要であり、そのため文章量が多くなる箇所もありますが、図表や写真のレイアウトなどの視覚的な見易さを意識し、できるだけ理解し易い内容となるよう努めています。また、従業員による内容の紹介を記載するなど、親しみ易いレポートの制作に心掛けています。</p>
<p>専門用語が多く、理解しづらい文章があります。平易な文言への変換が必要な箇所もあります。</p> <p>専門用語の解説をもっと増やして欲しい。</p>	<p>サステナビリティレポート巻末の「用語解説」のほか、本書の各ページ下段(欄外)に「Dictionary」として用語の解説を掲載しています。また、より詳細な内容を閲覧できるようにホームページのURLも掲載していますので、あわせてご活用ください。今後とも分かり易い内容となるよう努力してまいります。</p>
<p>J-POWERの事業所情報を詳しくご紹介下さい。</p>	<p>誌面の都合により、事業所の詳細情報の掲載は控えさせていただきました。弊社のホームページ内の「企業概要」をご覧ください。  <a href="http://www.jpowers.co.jp/company_info/about/kigyoku/kigyoku_net.html">http://www.jpowers.co.jp/company_info/about/kigyoku/kigyoku_net.html</a></p>
<p>グループ会社の情報をわかり易く、詳細に記載をお願いします。</p>	<p>誌面の都合により、事業所の詳細情報の掲載は控えさせていただきました。弊社のホームページ内の「主なグループ会社」をご覧ください。  <a href="http://www.jpowers.co.jp/company_info/about/kigyoku/renketsu.html">http://www.jpowers.co.jp/company_info/about/kigyoku/renketsu.html</a></p>
<p>読み易く、分かり易く、写真、イラスト、カラーなど レイアウトも良く楽しめた。</p> <p>用語解説を加えるなどして、一般読者に電力問題を考える材料を提供されている点を評価します。</p> <p>アンケート調査を拝読させて頂きました。ひと目でよくわかる様にとめられ、感心しました。</p> <p>会社の取り組んでいる内容がよく理解できた。これ以上は望まない。</p>	<p>読者のみなさまよりいただきましたJ-POWERグループ サステナビリティレポート2010に対する貴重なご意見を、大切なメッセージとして受け取り、今後のレポート作成や事業活動に役立てていきます。</p>